

2 新コーナーをスタート

■ イベント Information

イベント関連の情報を1つのコーナーに集約しました。



今号は
11ページから
掲載

■ ヒタチノヒトタチ

毎号、日立市で活躍するさまざまな方々にスポットを当てます。



毎号
裏表紙に
掲載

3 より読みやすく、見やすい紙面に

幅広い年代の方が読むことや、写真・イラストが映えるようにすることを意識して、紙面デザインをシンプルにし、コーナーごとにベースとなる色味を統一しました。



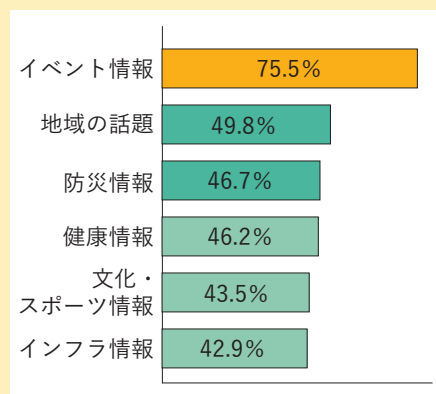
お知らせ
講座・教室
募集
健康
図書館



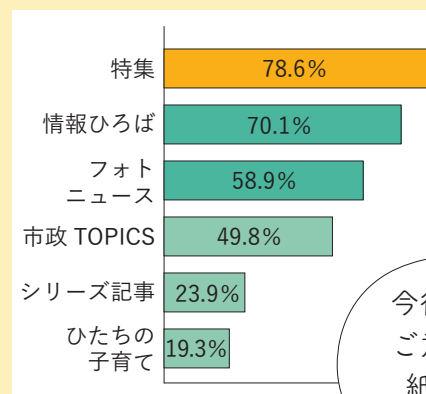
「情報ひろば」のページの左側にインデックスを表示し、知りたい情報のジャンルを探しやすくしました。

市報に関するアンケート 実施時期 令和7年4月 回答者数 1,273人

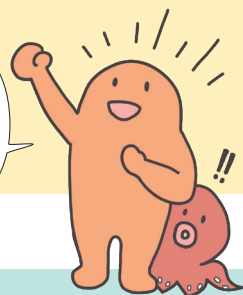
Q. 取り上げてほしい記事



Q. よく読んでいる記事



今後も皆さんのご意見を参考に紙面づくりを進めていきます



市民ニーズに答える紙面づくりを

リニューアルに当たっては、4月に市公式LINEを通して実施したアンケートの結果を参考にしています。回答していただいた皆さま、ありがとうございました。

市報をリニューアル

- ✓ 発行回数を **月1回** に
- ✓ 発行日は **毎月1日**
- ✓ 次号から発行日の **3日前** までに市民の皆さまにお届け
- ✓ **紙面構成** などを見直し

今号から市報ひたちをリニューアルし、「広報ひたち」に生まれ変わりました。
発行回数は、これまでの月2回から月1回に変更。題字を含む表紙デザインや、紙面構成などを見直しました。
ページ数を増やし、記事は分かりやすく簡潔に記載することで、発行回数が変わっても、必要な情報を余すことなくお届けします。

問合せ 広報戦略課 ☎内線509

リニューアルのポイント

1 市報の名称&表紙デザインを変更

題字を「市報ひたち」から「広報ひたち」に変更。表紙のデザインは、「市の広報紙」であると一目で分かりやすいように配慮しました。



発行月のロゴは写真などに合わせて色を変更

誰にでも見やすい
シンプルな
デザイン

題字が写真に埋もれないように分割して配置

これからも市民と市政をつなぐ架け橋として

いつも市報をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

日立市が誕生した翌年の昭和15年7月に創刊し、市民の皆さまの暮らしとともに歩んできた市報は、より幅広い情報を多くの方に「広く報せる」という趣旨から、「広報ひたち」へと名称を改め、新たな一歩を踏み出しました。本市では、時代に合わせ、これまで多様な媒体を活用した情報発信を進めて参りましたが、その中にもあっても、市報は市民に伝えたい、市民が知りたい情報を確実に伝えることができる媒体として、重要な役割を担っております。

月1回発行となっても、引き続き市民と市政をつなぐ架け橋として、多くの方に親しまれるものとなるよう、紙面づくりに磨きをかけていくとともに、市公式LINEやホームページなども活用し、市民の皆さまに確実に伝わる広報の充実・強化に努めて参ります。

日立市長 小川 春樹



特集

市報をリニューアルしました



点訳市報を作成する
日立点訳友の会の皆さん

市報を陰から支える ボランティアの皆さん

誰もが市報を通して情報
を得ることができるように、
ボランティアの皆さんの手
により、点字市報や声の市
報を作成し、希望者に送付
しています。



声の市報を作成する
日立リーディングサービスグループの皆さん

2001年



▲ 第1235号（平成13年4月5日）
市報の題字をリニューアル。デザインは
市民などから募り、応募があった44点
の中から選ばれました。

2001年



▲ 第1229号（平成13年1月1日）
タブロイド判から現在と同じ
A4判に変更しました。

1975年



▲ 子ども市報（昭和50年9月20日）
通常の市報とは別に、年4回「子
ども市報」を発行。現在は市報
の特集記事である「子ども通信
員リポート」に形を変えています。

2022年



▲ 第1729号（令和4年9月20日）
特集で市内でがんばる若者た
ちをクローズアップ。茨城県
広報コンクールで特選を受賞
しました。

NEW 2025年

広報 ひたち

10
No.1799



市報をリニューアルしました

次号で1800号！

これからも
広報ひたちを
よろしくお願いします。



市報担当職員



市報の歴史を振り返る。

今号で1799号となった市報。昭和15年7月に創刊してからこれまで、
時代とともに少しずつ形を変えながら、市民の皆さまにさまざまな情報を
届けてきました。歴代の市報の表紙とともに、その変遷をたどります。

1964年



▲ 第260号（昭和39年5月5日）
本号から採用された題字は、
歴代最長となる37年間使用され
ました。

1949年



▲ 復刊第1号（昭和24年5月15日）
昭和19年から戦争の影響で休刊
していた市報が、5年ぶりに復刊。
昭和26年からはタブロイド判に
なりました。

1940年



▲ 創刊号（昭和15年7月15日発行）
日立市誕生の翌年、昭和15年7月15
日に最初の市報を発行。当時はB5版
サイズでした。

記念すべき
創刊号

全戸配布
スタート

2021年



▲ 第1707号（令和3年10月5日）
配布方法を見直し、市報をすべてのご家
庭に届ける全戸配布をスタートしました。

2019年



▲ 第1659号（令和元年9月5日）
市制施行80周年となったこの
年、市報の題字を18年ぶりに
リニューアル。大煙突と山々、
海、市役所の庁舎と大屋根広場
など、さまざまなイメージを連想
させるデザインが特徴です。

2016年



▲ 第1590号（平成28年9月5日）
本号が茨城県広報コンクールで
最優秀賞（特選）を受賞。「命
のボタン、つないで」と題した救
急医療についての特集を掲載し
ました。